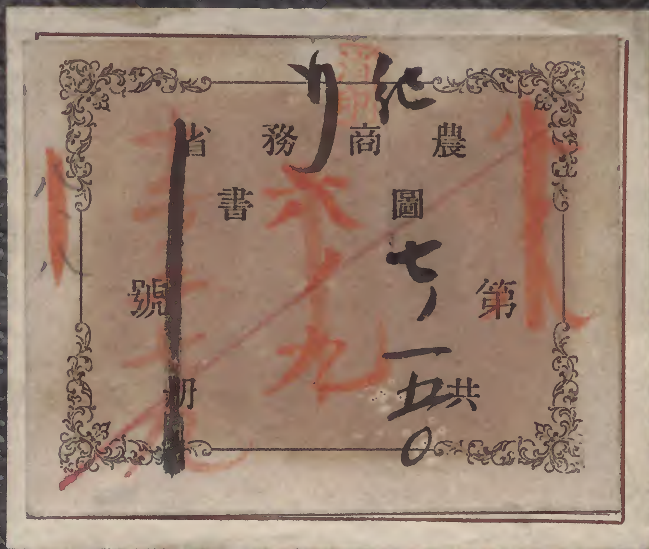


航米日録



大政官文庫		和
一	二	書
三	三	門
八	八	
七	冊	

庫文閣 ⁹⁹ 内		内閣文庫	
八	一	番號	和 11338
六	三	冊數	7 (1)
函	三	函號	186 99
二	八		
七	號		
冊	冊		
架	架		



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



航米日録卷一

正徳十三年

大藏省
御用
御用
御用

萬延元年... 奉行豊前守新見使君... 守村垣使君... 官使... 計七十七... 各輕裝... 本外割... 改... 章...

内政官
内庫

奉
行
豐
前
守
新
見
使
君
副
使
外
國
御
奉
行
淡
路

航米日録卷一

明治十三年購求

萬延元年戊申春正月十有八日正使外國御
奉行豐前守新見使君副使外國御奉行淡路
守村垣使君御目付豐後守小栗使君其外屬
官從臣統計七十七人各輕裝ニテ米州華盛
頓條約ヲ結ニテ廟命ヲ蒙リ彼ヨリ艤
シタルホーハタン名船へ乘リ渡ラレケル是
本邦剖判以來ノ快事有志者誰レカ陪扈ヲ
欲セザランヤ唯人負限リアルヲ如何モ予
幸ニメ新見使君ニ陪スルヲ得ル元ヨリ書

内政官

Blank page with faint red markings.

内車
高野

生ニメ 俗務ニ暗シ 賤事ヲ務ムルハ当然ナ
リ然レテ 舩中ノ紛擾閑ヲ得ル能ク且万
里外ノ地語音侏離駛舌更ニ通セス何ヲ以テ
其政事物情深ク探ルヲ得ニヤ遺憾ト云フ
ベシ是ヲ以テ予独見ニ從ヒ漫然記メ定テ誤
リ多カラシ然リト虽一ヲ以テ十ヲ推ス
其大畧知ラルヘシ是他ノ笑ヲ顧ミサル所
以ナリ王虫誼誌ス
十八日 晴巳牌後 癸卯 新見使君 江戸飯田 築地講
武場ニ至ル路傍ノ人雲霞ノ如ク羣リ米利堅行

ノ快事ヲ見 朋友數十人詩或ハ文ヲ以テ来リ送
ル此處ヨリ從者總計九人ニ減セラル各午飯ヲ
喫ス未牌後小舩ニ乘リ三里計行キ品川海ニ至
リ彼舩ニタルホーハタン 舩ニ乘リ移ル舩上即
午祝砲ヲ祭ス又胡樂ヲ奏ノ響ス且口小砲隊嚴
重ニ備ヘ暫クノ止ム乃チ解纜シ黄昏横濱港ニ
至リ碇泊ス扱テ舩上米行ノ衆徒左右前後ニ雜
運行李ノ有無ヲ訖シ足ヲ容ル處ナシ黄昏後漸
ク身ノ居處ヲ定ム舩中ト虽ヘテ其狹隘言フヘ
カラス大畧左ニ記ス

船上舳^{トモ}ノ左右ニ房室ヲ管理ス大ニメ後二間横
一間半小ニメ四方一間各限隔アリテ十箇所ナ
リ又中樁ノ左右ニ二房アリ何レモ左右閣^{クハ}板ヲ
設ケ二層ニメ長サ一間計是寢室ナリ然ルニ一
房多キハ十人余少キハ六七人居ル予房室四方
一間半ニメ四個ノ閣板アリ人数七人其中ニ居
ル極メテ狭隘膝ヲ容ル、能クズ是ヲ推ノ他ヲ
知ルヘシ唯御奉行并御目付ノ房室舳ノ方ニテ
上層中層ニ設ケ廣メ且羨ナリ其外官事ニ管ス
ル者後者ニ比スレハ少シク緩ナルヘシ飲食ニ

至テハ其事ヲ司ル者アリト虫^{トモ}七十人餘ノ只
大レハ其時ニ至リ雜運各争ヒ食ス其苦難推
知ルヘキナリ
十九日晴滞船今日解纜スヘキ処英^{トモ}三^{トモ}三^{トモ}ト
此ヨリ故障ヲ入レシユヘ滞留ト云又金銀交替
ノ事アリト云フモアリ予官事ニ管セ故ニ詳
ナラス扱テ今日マテ雜運セシカ午牌後ニ至テ
始テ静ナルヲ覺ユ
長サ四十一間三尺幅七間半甲板下深サ四間五

尺ニメ四層ナリ砲窓凡十二メ皆加農備ヘナリ
初層ハ雜庫ニテ二層ハ雜庫且ツ士官房室ナリ
三層舳ノ方コトト^ルノ房室其左右士官ノ房
室アリ皆羨ナリ舳ノ方ハマ^ト口ス^下ノ房室ナ
リ即チ俗ニ云フ大部屋如キモノナリ寢寢皆釣
リ床ニテ閣板ヲ設ケス四層ハ檣丸三其外舳具
皆茲ニ具ス尤庖厨圍房等ナリ舳方ハ前ニ述
ニ通リ我^レ国人ノ房室ヲ管理セリ蒸氣器械ハ中
央ニアリテ奇巧精密人目ヲ驚ス其^レ行^ル如
キモノ委シク記ス能^クス舳中總數三百八十九

人其中日本人ハ七十七人ニメ米人三百十二人
ナリ規則ニ至リテハ極メテ嚴ナリ士官其外水
夫ニ至ル迄各当直アリテ^{時ヲ以テ}交^{替ヲ定ム}專^ラ其職
ヲ務ム必ス他ニ觸ヒス凡波アリト魚^凡怠ラヌ
十日ニ七八次或ハ四五次其業ヲ改メ且人数ヲ
闕ス其時ハ大鼓ニ笛ヲ交ヘテ人数ヲ揃ヘ水夫
共各其業ノ器械ヲ携ヘ列ス小砲隊ハ一列ニナ
リテ水夫ニ混セス^{ケウ井ノル}然後士官ノ若一兩
人一劍ヲ帶ヒ来リ其業ヲ改ム終リテ又大鼓笛
ヲ撃チ鳴ス即チ皆其場ヲ去ル又日曜ニハ舳中


者各衣服ヲ改メ宗法ヲ聞ク僧官之而ノ終日
職業ヲ休ス職業ヲ聞ス且宗法ヲ讀ムノ條必ス
中ハ船將ニ從フモナレハ毎船大同小異アリ
日ニ二次或ハ一次ストモアリ今次引ヨリ
其ノ親リ歸リナレバイキラハ船ハ尤嚴ニメ日
二次ハ勿論夜中ト虫瓦燈ノ点メ宗法ヲ讀ム
又日々三次マトロスニヒールト云フ酒ヲ与フ
是又大鼓ヲ撃チテ笛ヲ交人数ヲ集メ酒樽ヲ船
上ノ中程ニ置キ士官者一人各其名ヲ呼ヒ揚
ケ五夕入位ノ如此キ器ニテ一ツハ与フ欽業
造リ外ル食ハ滯船ト航船ト異ニス滯船中ハ大
牛ナ鮮キ毎朝目ヲ改メ久キ与フ外ニ蒸餅吸物

陽忌湯

ノ類アリ航海ノ時ニハ塩豕手菓餅ナリナリ
豆ノ陽惠等ヲ与フ外ニ粥ノ類木瓜ノ酢漬ナリ
何レモ水夫ノ食ナリ士官ノ者ハ航海中ト虫瓦
綿羊豕家鴨雞等ノ鮮肉ヲ食ス是ハ船中ニ養其
外蒸餅雞蛋ノ類ナレ五升芋薩テ芋ノ類ハ上下
共ニ諸品ニ合セ食ス厨人ハ大抵支那人或ハ崑
崙奴ナリ船中掃除ハ毎朝水ヲ流シ細沙ヲ以テ
洗フ器械ハ油木綿或ハ古羅紗ヲ以テ拭ヒ磨キ
一日モ怠ルナレ但シ何モ密石ノ細粉ヲ用セ
若シ怠ル或ハ喧爭等ノ罪アル者ハ桎梏ヲ大房

中ニ禁錮ス音樂ハ晴雨ニ從ヒ一日ニ二度或一
 度奏ス衣服ハ潮水ニテ洗濯シ夜中或ハ爪アル
 尺晒ス是爪露ヲ以テ塩氣ヲ去ル小云ノ又時鐘
 アリ我因ト違ヒ晝夜二十四時六分四テ半時
 トニ鐘ヲ撃ツツ〇一カツ三分二カツ半五分
 四カツ五分五カツ二分六カツ半七分八カツ
 一カツ七分二カツ七分三カツ七分四カツ七分
 五カツ七分六カツ七分七カツ七分八カツ七分
 九カツ七分十カツ七分十一カツ七分十二カツ
 七分十三カツ七分十四カツ七分十五カツ七分
 十六カツ七分十七カツ七分十八カツ七分十九
 カツ七分二十カツ七分二十一カツ七分二十二
 カツ七分二十三カツ七分二十四カツ七分二十五
 カツ七分二十六カツ七分二十七カツ七分二十八
 カツ七分二十九カツ七分三十カツ七分三十一
 カツ七分三十二カツ七分三十三カツ七分三十四
 カツ七分三十五カツ七分三十六カツ七分三十七
 カツ七分三十八カツ七分三十九カツ七分四十
 カツ七分四十一カツ七分四十二カツ七分四十三
 カツ七分四十四カツ七分四十五カツ七分四十六
 カツ七分四十七カツ七分四十八カツ七分四十九
 カツ七分五十カツ七分五十一カツ七分五十二
 カツ七分五十三カツ七分五十四カツ七分五十五
 カツ七分五十六カツ七分五十七カツ七分五十八
 カツ七分五十九カツ七分六十カツ七分六十一
 カツ七分六十二カツ七分六十三カツ七分六十四
 カツ七分六十五カツ七分六十六カツ七分六十七
 カツ七分六十八カツ七分六十九カツ七分七十
 カツ七分七十一カツ七分七十二カツ七分七十三
 カツ七分七十四カツ七分七十五カツ七分七十六
 カツ七分七十七カツ七分七十八カツ七分七十九
 カツ七分八十カツ七分八十一カツ七分八十二
 カツ七分八十三カツ七分八十四カツ七分八十五
 カツ七分八十六カツ七分八十七カツ七分八十八
 カツ七分八十九カツ七分九十カツ七分九十一
 カツ七分九十二カツ七分九十三カツ七分九十四
 カツ七分九十五カツ七分九十六カツ七分九十七
 カツ七分九十八カツ七分九十九カツ七分百

七カツ七分八カツ七分九カツ七分十カツ七分十一カツ七分十二カツ七分十三カツ七分十四カツ七分十五カツ七分十六カツ七分十七カツ七分十八カツ七分十九カツ七分二十カツ七分二十一カツ七分二十二カツ七分二十三カツ七分二十四カツ七分二十五カツ七分二十六カツ七分二十七カツ七分二十八カツ七分二十九カツ七分三十カツ七分三十一カツ七分三十二カツ七分三十三カツ七分三十四カツ七分三十五カツ七分三十六カツ七分三十七カツ七分三十八カツ七分三十九カツ七分四十カツ七分四十一カツ七分四十二カツ七分四十三カツ七分四十四カツ七分四十五カツ七分四十六カツ七分四十七カツ七分四十八カツ七分四十九カツ七分五十カツ七分五十一カツ七分五十二カツ七分五十三カツ七分五十四カツ七分五十五カツ七分五十六カツ七分五十七カツ七分五十八カツ七分五十九カツ七分六十カツ七分六十一カツ七分六十二カツ七分六十三カツ七分六十四カツ七分六十五カツ七分六十六カツ七分六十七カツ七分六十八カツ七分六十九カツ七分七十カツ七分七十一カツ七分七十二カツ七分七十三カツ七分七十四カツ七分七十五カツ七分七十六カツ七分七十七カツ七分七十八カツ七分七十九カツ七分八十カツ七分八十一カツ七分八十二カツ七分八十三カツ七分八十四カツ七分八十五カツ七分八十六カツ七分八十七カツ七分八十八カツ七分八十九カツ七分九十カツ七分九十一カツ七分九十二カツ七分九十三カツ七分九十四カツ七分九十五カツ七分九十六カツ七分九十七カツ七分九十八カツ七分九十九カツ七分百

人当直アリ船上ニテル一ツル

 形知ヲ以テ

指揮スホリスマニ
 頭指ハ小笛
 名ヲシラズ

吹キ指揮ス其外舟歩度数ヲ考ヘ少シモ間隙
 ナシ
 舟歩ハ沙半ヲ用ユ
 大圖身

一コモト一ル
 其他諸官ノ俸金

一コモト一ル
 一々年四千大圓銀

一船將
 一々年三千大圓銀
 給金ナレト

一ホリハタニ船將ハ二千八百大圓銀ヲ受

一士官第一等員以第六等并譯此追金
 一勘定役
 一第一等醫師 其出給金
 一第二等同其出給金
 一第三等同其出給金
 一士官第一等員以第六等并譯此追金
 一勘定役
 一第一等醫師 其出給金
 一第二等同其出給金
 一第三等同其出給金

一計一ヶ年九百大圓銀
 一蒸氣機管方頭
 一士一ヶ年二千大圓銀
 一同助役
 一同助役
 一同助役
 一砲方
 一工頭

第二 船中ニテ紙提灯ヲ用ユヘカラス
 第三 船將房室ノ外夜四鼓ニ至リ燈火ヲ消ス
 第四 庖厨所ハ夜四鼓後ニ終ルヘシ日本庖厨
 所ハ夜五鼓ニ終ルヘシ
 第五 水ハ船中一人ニテ凡ニ升割ヲ以テ割
 烹スヘシ
 第六 酒ハ船中ノ者共ニ彼ノ方水夫自ルヘカ
 ラス且持去ラシ
 第七 合菜又ハ火器類ハ日本人ニ渡セシ房室

第八 房室内火ヲ貯フルヲ許サス
 第九 平日船中燈火第一ニ心ヲ用ユヘシ
 第十 官吏ノ外船中士官ノ房室ニ入ルヲ許サ
 ズ
 第十一 右方ノ圍房^{カワヤ}ハ第一等ノ官吏左方ノ圍
 房ハ第二等ノ官吏之ヲ用ユ後者ハ船^{フネ}
 中^{ナカ}アル所ノ圍房ヲ用ユヘシ
 第十二 船中ノ者共^{彼方水夫}指ス日本人ニ對シ過
 アリシ片ハ通辨官ヨリ其次第々一等曰

イテナニト官ニ知ラスヘシ
右ノ法令今年後舟ノ中央ニ張タリ何レモ法令
ヲ守ルヘシ唯舩ニアル所ノ圍房ハ更ニ葺蓋ナ
ク爪雨ノ節波涛飛騰ニ始メテ航海セル者ハ其
場ニ行ク能クス役者大ニ難澁ス止ムヲ得ス法
ヲ犯メ左方ノ圍房ヲ用ユ是亦当然ノコトニテ敢
テ咎ムル能クス
廿日陰晴不定滞舩今日ニナリテハ花旗人ト互ニ相
親ム多クハ日本御早フ或ハヨカキニト云フ
語ヲ覺ヘ居ルノミニシテ其餘侏離駛舌更ニ通

セス唯彼極メテ丁寧何人ニ限ラス能ク事物ヲ
教ヘ少シモ隠スコトナシ予元ヨリ夷語ヲ厭フナ
レト舩中亦少ナケレハ或ハ相交リ習ヒシカ
空ニク日ヲ送ルヨリハ稍優サルヲ覺ユ且ツ彼
等ヲ見ルニ各其業ヲ專一ニ務メ暫時モ怠ラス
總官ノ者下知スレハ神速其事ニ趣キ臂ノ拍ヲ
使フ如シ
廿一日陰晴不定滞舩午後大雪舩上ノ雪混腫ヲ
没スルニ至ル予草履ヲ持セズ跣足ニテ歩行ス
其難苦ソテ知ルヘシ

廿二日 晴北風 辰前解纜ス蒸気焰ニ舟歩ノ疾キ

矣、如ク半時許ニ猿島ニ至ル総房模糊トメ

遙ニ見ヘ旦那房、鋸山斜メニ聳ヘ其形容鋸ニ似

タリ是名、由テ起ル所平本牧ヨリ猿島ノ間雪

後岩礁銀、如ク其絶景応接暇ナキニ似タリ唯

舟歩、速倏忽、間チ変化誰レカ能ク其景ヲ

認メシ半已後浦港ヲ過キ豆州大島海ニ至ル房

、洲岬豆ノ三岬瞬息、間ニ過キ去ル是ニ於テ

初テ火船、速ナルヲ知ル午牌已ニ四十里ニ至

ル是彼ノ里法ナリ日本申牌日本地方ヲ去ル八

十里ニテ二十里弱ニ当ル

九十里雲霞段、如ク見テ分明ナラス夜ニ至リ倏

チ雨トナリ四面黯黒見ル所ナレ唯々一睡ニ付

ク、三今日舟歩東北ニ向ヒ行ク

○寒暖計四十九度○解纜ヨリ正午迄舟歩四十

里里法北緯三十四度五十分四十抄○東経百

三十九度五十分十抄

廿三日 朝晴午後西北

又東北ニ向テ今日ニ至リ

日本地方毫毛見ヘス四面唯渺茫タリ午後西北

風烈シク且暴雨ニテ波濤天ヲ跳ル如ク船上ヲ

飛騰シ衆、騒動常ナラス夜ニ入リ尚止マズ船

上ニ管理ニタル房室へ雨水注キ入り殊ニ予輩
ノ房室川ノ外クニナリ坐スルヲ得ス閣上板ニ
居ル者其難ヲ免ルレ下ニ在ル者免ルヲ得ス
各官吏へ其條ヲ説キ御奉行房室ノ次室ヲ借リ
休息セシカ坐中ノ器物左右ニ顛倒ニ波濤ノ色
耳ニ響キ暫時モ眠ニ付ク能ハス尤七十餘ノ衆
徒都テ魂ヲ失ヒ一人トモ色ヲ発スル者ナク病
人ニ同シ子牌ニ至リ風波愈烈ニク陶器ハ碎ケ
木器ハ破ル今ニモ没溺セント思フナリ然ルニ
其業ニ馴レシトテ花旗人ノ拳動サシモ変セス

各其業ヲ守リ殊ニ当直ノ者ト見ヘ各房ヲ監視
ニ破損ノ所ヲ能ク記シ又燈ノ消タルヘハ火ヲ
点ス什器ノ顛倒ハ能ク始末シ一トモ遺漏セス
如此キノ風波何トモ思ハサルナリ然ラハ彼等
ノ常ニメ予等ノ恐怖ハ定テ一笑ニ付スナラシ
ト翌日ニ至リ赧顔ニ堪ヘズ
○寒暖計四十七度○昨正午ヨリ今正午迄百七十
八里○北緯二十五度廿二分四十六抄○東経百
四十三度十分十抄
廿四日 陰晴不定 北風 又東北ニ向フ今日ニ至リ 雨止

昨日ニ比スレハ波濤穏カニメ衆皆喜フ時、雨
雪アリモ甚シキニ至ラス風ハ依然トメ尚止マ
ス夜ニ入り亦同シ

○寒暖計五十度○正午迄二百三里○北緯三十
五度十七分四十抄○東経百四十七度十八分四
十五抄

廿五日陰晴不定又東北ニ向フ北風烈シク雨雪

忽チ来リ忽チ止ミ一日中頻リニ変シ波濤高ク
船上ヲ飛騰ス連日ノ風波人皆恐縮ス夜ニ至リ
尚止マス舟ノ揺動烈シケレト一昨日ニ比スレ

ハ少シク静ナリ

○寒暖計四十三度○正午迄二百四里○北緯三
十五度五十四分五十九抄○東経百五十一度十
七分四十二抄

廿六日晴寅卯又東北ニ向フ今日ハ解纜後曾テ

無キ快晴ナレト風烈シク舟ノ揺動廿三日ニ行
拂タリ尤逆風帆ヲ揚ル能ハス唯蒸氣ノ熱カラ以
テ駛ル夜ニ入り風波大ニ穏カ也衆皆安眠ス

○寒暖計五十度○正午迄二百廿五里○北緯三
十五度五十一分二十九抄○東経百五十五度四

十五分

廿七日晴南風烈又東北ニ向フ南風横帆ヲ以テ

映ル波浪殊々外高ク船上ヲ飛騰スルヲ数次ニ

及ヒ滿帆爪ヲ受ケ舟歩速ナルユヘカ舟ノ揺動

甚シキニ至ラス唯南風温暖ニメ衆ノ気分悪シ

ク平日ニ異ナリ已牌船上音楽ヲ奏ス晴天ノ節

ス怒涛舟上ニ飛騰スルニモ管セズ悠々タリ是

ヲ聞キ心中相和キ船中苦難ヲ忘ル古昔亦ヲ以

テ人心ヲ和ケシトカヤ胡乐ヲ聞キ尚如此況ン

ヤ正樂ヲ聞クニ於テヲヤ樂ノ捨ッヘカラサル

ト是ニ於テ知ルヘシ午後南風愈烈シク天色始

メト異ナリ舟ノ揺動殊々外甚シキニ至ル夜ニ

入り暴風雨トナリ怒涛ノ觸ル處舟殆ト摧ケ

ントスルヲ数次ニ及ヒ船上歩行スル能ハス或

ハ匍匐或ハ米人ニ助ケラレ行ク子牌ニ至リ風

波尚烈シク天ヲ蹴ル如ク舟上ヲ飛騰スル也之

ヲ聞キ何人カ魄ヲ失サラン此時ニ當テ徒ニ天

運ヲ待、ニニテ良策施スヘキナレ夫ヨリ半時

許過キ疲労ノ餘恍惚眠ニ就キシカ予ノ寢室ハ

閣板上ナレト砲窓ノ側ニテ

砲窓ヲ假リニ塞怒
キ房室ヲ管理ス

涛觸レ来リ忽チ半間許破損ニ及ヒ其破孔ヨリ
波涛漲リ入リ一室大川ノ如シ予独リ死路ニ当
リ満身波涛ニ浸サレ耳目鼻口悉ク潮水ニ咽セ
殆ト氣ヲ失ヒ其場ヲ逃ル能ハス狼狽ヲ極ム
波涛又ニ盪ニ来リ予之カ為ニ後口ニ引返サレ
然ルニ何ノ幸ゾマ最初逃レ出ントセル所ハ破
孔ニテ一步進メハ大海ニテ臬腹ニ葬ルマテ也
波涛ノ為ニ後口ヘ引キ返サレ之カ為メ其難ヲ
逃レタリ是又天ノ助クル所ナラント喜フ夫ヨ
リ戶外ニ間許逃レ出シカ房内ニ両カヲ置シテ

覺ニ即還リ其場ヘ入リシカ波涛愈烈シテ觸レ
来リ容易ニ入ル能ハス必死ニナリヨ尋子シカ幸
ニメ両カ水中ニアリ即チ携乃ヘ船上ヲ匍匐ノ中
層御奉行房室、次室ヘ逃レ入りタリ衣服其外
ノ什器ハ勿論満身遺ル処ナク波涛ニ浸サレ寒
冷肌ニ徹ス誰人ニカ衣服ニテモ借ラント思ヘ
天何レモ恐怖死人ニ同シ人ノ難ヲ願ル暇ナキ
コソ尤モナリ然ルニ予ト一房ニ居リシ松村吉
次郎ト云フ人アリ 村垣使君ノ從臣ナリ上総ノ
産ニテ擊刺ニ達、江戸ニテ
清水公長屋ニ 居ルト云フ 年齢五十九才ナレバ嬰鑠尚健ナ

リ予ニ先シテ逃レ出テ予カ体ヲ見テ綿衣一襲
ヲ貸シ与フ苦難ノ折リ辞セズメ受ク暫時是ヲ
以テ凌キ居リシカ一時半許過キ又ニ寒冷身ニ
徹シ覺ヘス身悸々タリ是外病ヲ受クルナラニ
ト思ヘ凡之ヲ凌クノ策更ニナシ已ヲ得ス其終
休息セント是ヲ伸シ熊皮一枚ヲ探リ得タリ何
人ノ所持ナルカ空シク其場ニマリ是幸ナリト
即チ一身ヲ纏フ暫時ニメ寒冷ヲ忘ルニ至ル
然リト虽凡波尚止マス舟ノ顛倒数次ニ及ヒ
什器ノ破碎甚ク絶タス何リ安眠スルヲ得ンヤ

衆皆戦々乎トメ其夜ハ明シケル由對彼
○寒暖計五十六度○正午迄百九十里○北緯三
十六度廿三分三十九抄○東経百五十九度二十
八分

廿八日 朝南風午 又東北ニ向フ昨夜ノ凡雨尚止
マ辰牌予船上へ登ラントスレト舟ノ揺動甚
シク歩行スル能ワス花旗人危ニト示メ止ム
已牌忽チ西風ニ変シ兩止ニ波亦静ナリ乃チ船
上ニ登リ予房室ヲ見ルニ房中ノ什器ハ言フニ
及ハス持来リシ書籍其外必用ノ品残ラヌ潮水

ニ浸サレ当惑ニ及フ併ニ昨夜ノ危難一命ヲ失
ワザルハ僥倖ナリ暫時、当惑心ニ管スルニ足
ラス先ツ浸サレタル衣服等乾スニ若カスド船
上ニ晒シタリ潮水ニ容易ニ乾カス其苦難推
メ知ルヘシ午後水夫共一統ハ昨夜勤勞セシ功
ニヨリ船將ヨリ千大圓銀ヲ与フト云フ賞罰、
明ナル感スヘキト也扱テ昨夜ノ風波ニテ船中
ノ破損數ヶ所ニ及ヒ殊ニ水師提督用意ノハツテ
イラ一艘波濤ニ奪ヒ去ラル如此キノ風波二十
年航海中更ニ逢フタルヲナキ由提督、新アリ

ト云フ左スレハ尋常ノ船ニテハ忽チ破壊ニ及
フベシ此ホーハタニハ花旗国ニテモ有名ノ堅
牢船ナルヲ以テ其危難ヲ免ルナラン僥倖ト云
フベシ予等始メテノ航海希有ノ風波ニ逢ヒ誰
アリテ心胆ヲ失サルモノナレ是又尤ノヲナリ
午後風波大ニ穏カニメ舟歩亦速カナリ衆皆稔
生ノ心地セリ
○寒暖計五十六度○正午迄百五十四里○北緯
三十六度四十八分三十三秒○東經百六十二度
三十四分

廿九日 朝晴西風午 又東北ニ向フ快晴一天雲ナ
後戊爽風 之風波モ穩カニノ衆ノ喜ヒ限ナシ船上縦横ニ
 歩行メ米束ト戯ル予何ソ戯レ楽ムニ暇アラシ
 一昨夜ノ濡衣等ヲ乾カサント紛擾ニ堪ヘス專
 ラカチ是ニ用ユ潮水ユヘ容易ニ乾カス衣類ハ
 可ナリ 服スルニ足レ夜具ニ至ル殆ント困却
 ニ及フ友人太濱玄之助 外国御奉行定役ノ從士
テ予江戸ニ予 如此キヲ愍ミ布團一枚毛氈一
テ交ヲ結フ 枚ヲ貸シ与フ困友ノ懇情何ソ辞スルコアラシ
 即チ受ケテ夜ノ寒冷ヲ防ク是又幸ト云ヘシ昨

日午時ヨリ西風ニテ舟步速ヤカナリシカ夜子
 牌ニ及ヒ忽チ東風ニ變シ帆ヲ揚ル能ワス唯蒸
 氣ヲ以テ駛ル扱テ此一兩日ハ温暖江戸四月末
ノ氣候ニ似タリ
 ○寒暖計五十六度半○正午迄二百八里○北緯
 三十五度五十八分四十二抄○東経百六十六度
 四十五分十抄
 晦日 陰東 又東北ニ向フ昨夜子牌ヨリ東北風ニ
北風 テ尚止マス唯蒸氣ヲ以テ駛リシユヘ舟步疾カ
 ラス申牌風波少シク高シ夜ニ入り尚止マス子

牌南風ニ変シ風波愈高ク舟ノ揺動常ナラス
○寒暖計五十五度○正午迄百八十一里○北緯
三十五度三十三分二十五秒○東経百七十度廿
一分三十三秒
二月朔日大風南又東北ニ向フ今朝ニ至リ南風
愈烈シク波濤山ヲナシテ来ル已後船上ヲ飛
騰スルニ至ル解纜以來数度暴風而又如此
ニテハ眞腹ニ突ラルモ計リ難シ各覚悟ヲ極
ム午牌ヨリ波濤尚烈シク舟ニ觸ル、一常ナラ
ズ殆ト廿七日ニ彷彿タリ予、房室前ニ記シ通

「砲窓」傍ニテ破損後修理ニ及ヘトモ怒濤相
激シ罅隙ヨリ潮水洒キ入り房中川、如ク如此
ニテハ又々破損モ計リ難シ房中ノ什器残ラス
中層へ移シ其処ニ休息ス風波尚止マス一身左
右ニ轉シ眠ニ付ク能ハス其上常人ノ情種々ノ
事ヲ考ヘ空シク氣ヲ惱メ居ル他人ノ又聞キ大
笑スヘシ然レモ其厄ニ当リ見シハ實ニ已ヲ得
サレナリ戰場ナラハ互ニ競ヘ生死心ニ管スル
暇ナシ大洋中唯風波ニ従、如何ナル妙策アリ
ト魚尾施ス能ハス船上鬱々ト日ヲ送ル、三

平波ノ時タリ氏種々、思ヒヲ生ス况マ凡波、
難ニ逢フテハ猶更ノ事ナリ此時ニ当リ泰然動
カサル者ハ万人ニ一人ナラニ子牌舟ノ揺動愈
甚ニク身ヲ定ムル能ク傍柱ニ結テ置キタル
綱ヲリ身ノ動カサル様其綱手ニ取リ夜中明ニ
ケル扱テ是迄ノ間能ク彼情ヲ察スルニ波濤高
ク船揺動ノ歩行難淡ノ時ハ手ヲ取リ助ケ又ハ
夜中中層へ行ケハ御早フト云ヒナレヘン布團
ヲ敷キ此処へ寝ヌヘレト午示ス或ハ我人ノ
悲歎ノ色ヲ見テハ午キニ云フテ慰ム是ハ
午キ

ニ港ニ至ルト 其外何事ニテモ 鄭重ニ世話ニ自
云フ心ナラン 分ノ業ヲ捨ルニ至ル 其親切感心ナリ然ラハ弟
人トテ漫ニ卑下スルモノニ非ス此等ノ人ニテ
モ聖教ヲ施サハ必ス礼義ノ人トナラシム古昔聖
人出スノ唯利ニ耽ル 国トナルコソ悲シムヘシ
今日花旗国始祖華盛頓生辰ナリト云
○寒暖計五十四度○正午迄百六十五里○北緯
三十六度三十分五十五抄○東経百七十三度三
十三分三抄
二日 朝 風 雨 午後 又 東北ニ向フ昨夜、風雨尚止
陰 西 風 烈

マス已牌ニ及ヒ雨初テ晴ル西瓜ニ変ニ舟揺動
セス午後尚穏カニメ衆ノ喜ヒ限リナシ昨夜ノ
苦難ヲ忘シ船上ニ戯レ居ル雨後雲霧四面ニ族
リ終日鬱々タル景色ナリ夜ニ至リ愈穏ニメ衆
皆安眠ス扱テ此辺ニ至リ時候不順ニメ一日ノ
内陰晴屢変シ晴ニト夕晴レス雨ヲラントソ雨
ヲラス江戸秋未ノ氣候ニ彷彿タリ今夕六ツ時
午線ヲ過ク牛線トハ東西径分際ノ処ヲ指ス故
ニ午線ヲ起ス下無処同シカラス今此午線ハ英
国竜動府ヲ基トシ起シタル処ナリ此処日差ヲ

午可作午

考へ潤域ヲナス今次ホーハタンニテモ一日ヲ
潤ス是地球一周スルヲ以テ自ラ其差ヲリト云
フ其説下ニ詳カナリ
○寒暖計四十八度半○正午迄二百三十里○北
緯三十七度五十一分○東経百七十七度三十六
分十五抄
三日陰晴不定又東北ニ向テ陰晴不定小雨頻リニ
来ル唯順風舟歩矣ノ如シラントルレテニモル帆
ヲ始メテ揚ク是ハ常帆ノ傍ヲニ別ニ増加セシ
云愉快ト云フベシ本月一日ハ花旗国関祖華盛

頓生辰ニ当リテ十二時正午ニニ祭砲シ其日ヲ
祝スヘキ処ナルニ烈風暴雨ニ其儀式行フ能
ワズ故ニ今日正午祝砲ヲ十一発ニ後ニ至リ我
國ノ御奉行其他彼士官房室マテ櫻桃酒等ヲ出
シテ祝賀ス音楽朝夕奏ス予其人員ヲ調ヘ見ル
ニ総計九人ナリ尤音壺和少ナク極メテ野鄙ナ
リ聞クニ是ヲス但シ九人ハ定数ニ非ス後他船
ニ乘リ見ルニ或十五六人或ハ三十人餘ニ至ル
モアリ然ラハ其数定リナシト見ユルナリ未後
花旗人ノ食トテ肉饅頭燒鳥莖餅ノ類持チ来リ

シカ臭氣鼻ヲ衝キ予輩ノ口ニ合ス又酒一壺ア
リビール酒ト云フ一喫ス苦味ナシ元口ヲ湿ス
ニ是ル黄昏雲晴レ初弦月波上ニ浮ヒ四顧渺茫
其絶景言フヘカラス解纜後此处ニテ始テ月ヲ
見衆ノ樂ニ思ヒ知ルヘシ
○寒暖計五十六度○正午迄二百二十里○北緯
三十七度五十五分三十三抄○西経百七十七度
五十分四十五抄
四日晴成又東北ニ向フ今日ハ解纜以来ノ晴天
波浪穏カニメ坐上ニ居ルモ同ニ衆ノ喜ヒ限ナ

之船上戯し遊つ花旗人其平日ニ異ナリ朝夕樂
ヲ奏メ采ム扱テ此迄ノ間四面渺々一物モ見ハ
ス唯波濤、色ヲ聞クノミナリシカ黄昏頃何方
ヨリ飛来ルヤ一鳥波上ニ浮ヒ色黒ク鶴ニ似タ
リ名ヲ知ラス
居ルヲ見ル漂様其止マル所ヲ知ラス
○寒、暖計五十五度○正午迄二百四里○北緯三
十八度一分三十六抄○西経百七十三度三十六
分三十抄
五日快晴寅
卯辰又東北ニ向フ今日ハ快晴一天雲ナ
ク其爪景江戸ノ四月頃ニ彷彿タリ午後東爪ニ

変ス帆ヲ揚クルヲ得ス唯蒸氣ヲ以テ駛ル夜ニ
入リ又寅卯辰ニ変ス帆ヲ揚ケ波浪穏ナル昨用
ニ同シ
○寒、暖計五十六度○正午迄二百里○北緯三十
八度四分三十抄○西経百六十九度三十一分三
十抄
六日快晴
東爪又東北ニ向ヒ駛ル快晴爪波穏ナレト
爪勢定ラス頻リニ寅卯辰ニ変シ帆ヲ上下スル
ヲ数次舟歩更ニ進マス夜ニ入り全ク東爪トナ
リ帆ヲ揚クル能ワス唯蒸氣ヲ以テ駛ル

○寒暖計五十三度○廿九日正午ヨリ今正午迄
千三百七十二里○北緯三十八度廿一分廿二抄
○西経百六十五度四十八分十五抄
七日朝晴午後
陰寅卯風又東北ニ向フ午後東南サント井
ツ島へ向ヒ駛ル横濱解纜ハ花旗國領サニフヲ
ニシスコヲ指テ駛リケルカ数次ノ風波舟歩疾
カラズ預備ノ煤石大ニ費ヘ此上風波ニ逢ヒ七
寸ハ前後ニ迷フニ至ル之レニ依テ今年後東南
ニ向ヒ忽チ横帆ヲ揚ケ駛ル風強クメ舟ノ揺動
頻リナリ申後風少シク止ム

○寒暖計五十五度○正午迄百六十三里○北緯
三十八度四十一分○西経百六十二度廿四分三

十抄

八日寅卯風猛
烈午後雨又南東ニ向フ風猛烈ニメ舟ニ携
ヘタル承盤或ハ茗盃ノ類迄吹キ悉サレ船上歩
行スル能ワス各氣ヲ傷メシカ午後ニ及テ忽チ
雨トナル風大ニ穏ヤカニメ舟ノ揺動モ少ナク
衆大ニ安心ス夜ニ入り雨ノモニテ風波静クナ
リ唯憂フヘキハ予ノ房室前ニ記シタル通り雨
水注キ入り坐中膝ヲ容ル所ナキニハ殆ント

困却ス

○寒暖計五十九度○正午迄二百九里○北緯三十五度廿五分五十二抄○西経百六十一度十七分二十抄

九日風雨東又南東ニ向フ今朝風雨尚止マズ唯暴ニ至ラス故ニ舟ノ揺動スナシ唯逆風舟歩疾カラス蒸氣ヲ熾ニナセ凡平日ニモ及ハス且昨夜ヨリ暖氣ニテ寒暖計六十九度ニ過ク

○寒暖計六十五度強○正午迄百七十二里○北緯三十三度十一分十二抄○西経百六十度三十

七分

十日朝雨午後微晴辰巳風

又南東ニ向フ昧爽雨晴辰後

又ニ雨トナリ風モ烈ヒク昨日ノ形勢ニ異ナラス午後漸ク雨止ニ始メテ日光ヲ見ル風亦東ニ

轉ニ横帆ヲ揚テ駛ル舟歩昨日ニ比スレバ少ク疾カラシ未後雨又来ル甚シク至ラズ夜

舟ノ揺動ヤリ又南東ニ向フ

○寒暖計六十五度○正午迄百六十二里○北緯三十三度二十一分四十抄○西経百五十九度四十分十三抄

十一日 晴辰巳 又東南ニ向フ今日ニ至リ爪尚烈
ニク波浪高ク舟ニ激シ来リ雲霧ノ如ク舟上ヲ
飛騰ス唯晴天ユハ忽チ乾キ船上ヲ湿スニ至ラ
ズ茲ニ一笑スヘキナリ 予去月廿七日ノ夜潮
水ニ夜具等ヲ浸サレ其後乾カスト虫匹雨氣来
ルハ忽チ湿フ故ニ晴天ヲ待ツテ必ス乾カス今
日ハ晴天ユハ又ニ船上ヘ晒シケルカ烈風潮水
ヲ飛揚スルヲ知ラス却テ潮ニ浸サレ肌ニ暑ク
ル能ワス何事ゾ又今次ノ航海予独リ苦難ニ逢
フ扱又天我ヲ玉ニセントシテ如此キ錯節ニ逢

ハ使ムルナラニ カトト 独笑シテ以シモ意トセ
ス唯其逢フ処ニ任ス
○寒暖計七十度○正午迄百十里○北緯三十八
度三十四分五十三抄○西経百六十度十二分四
十五抄
十二日 半晴半陰 東風烈 又東南ニ向フ今朝ヨリ東風ニ
変ス猛烈ニメ波濤天ヲ蹴ル如シ船上ノ步行心
ヲ用ヒサシハ忽チ倒ル兩ナケレ死廿七日ニ仿
彿タリ午後尚止マス三番ノ帆架ヲ破折ス如此
キヲ暴風定メテ稀ナルヘキニ夷人ノ容体以シ

モ変セス少間アレハ腰ヲ掛ケ或ハ佇立メ書籍
ヲ手ニ捨テス中層ハ每房或ハ讀書或ハ飲酒談
笑常ノ如シ但シ常トメ心ニ管セサレ欤又度量
ノ廣キユヘ欤予輩ハ今ニモ没溺セシ欤下氣ヲ
傷メ居ル彼ノ動作ヲ見ルニ赧然慙チ入ル
ナリ夜ニ入リ凡尚止マス房中ニ居ル能ワ
ス中層ヘ行キ卧ス上層ト違ヒ揺動少ク緩ニ
メ漸ク眠ニ就ク夷人愈親切ニメ今夜モ種々世
話ヲナシ布團ヲ著セ或ハ自分吸ヒ残シ、烟草
ヲ利ヲ与フ 此烟草ハ板ノ如クニ疊ニ固メ
夫ヲ直ニ喫ム烟ヲ吸フニ非ス

○寒暖計七十度○正午迄百五十八里○北緯ニ
十六度一分五十八抄○西経百五十九度三十七
分二十一抄

十三日 晴辰 又東南ニ向フ晴天ナレト凡烈シク
忽チ陰リ忽チ晴レ一日中屢変ニ入梅ノ時節ノ
如ク雲霧衣服ヲ湿ス舟ノ揺動亦甚シ夜ニ入リ
テモ同シ扱テ今日ハ廿ニト井ツ島ニヘントテ
衆皆領ヲ引テ望メ无更ニ見ヘス夜丑牌頃始メ
テ舟ノ左方ニ見ヘ衆皆喜フ故郷ヘ帰シ心地ニ
テ舟上ニ立チ彼島ヲ望ム予独中層ニ入リ卧ス

翌日ニ至リ始メテ船上ニ登リ尚糲糊トノ分明
ナラス

○寒、暖計七十度。○正午迄百七十二里。○北緯三
十三度二十分三十三秒。○西経百五十九度五分
四十五秒

十四日陰晴不定東風今曉寅牌オアホ島ヲ遙ニ船ノ左

ニ見ル此辺島近キ故カ波濤静マリ駛ルヲ二三

里ニメ南ニ向フ外牌ニ至リ島ノ南面ニ傍フテ

凡一里許ニメ東ニ向ヒ東風ユヘ帆ヲ揚クル能

ラス午牌オアホ港内ニ入ル我国ト花旗国トヲ

旗章ヲ揚ク乃チ当島在苗、花旗国コニユル

并ニ兩三員小船ニ乘リ船中ニ来ル其後ロイテ

ナント官人士卒指揮官テロル上陸ス御奉行

其餘役ニノ上宿所ヲ借受ス其上ニテ一統上陸

ス陸上車ニ乘リ旅館ニ至ル車ハ四輪ニテ馬ニ

匹或ハ一疋ヲ以テ引ク其速カナルヲ暫時ニメ

一里餘位行クト云大畧下ニ記ス扱テ上陸ノ節

海岸男女数百人雜還我国人ヲ見ル或ハ笑語シ

或ハ黙視スルヲ嘗テ我国ニテ異人ヲ見ルニ異

ナラス投宿後市街徘徊セシカテ等ヲ見ントテ

左右前後ニ男女雜還行クヲ妨クルニ至リ煩
キニ堪ヘサルナリ黄昏後歸館ス
○寒暖計七十度○昨正午ヨリオアホ港迄百五
十一里六尋○北緯二十一度十九分○西經百五
十七度五十二分
十五日或晴或雨滯留此処ハ晴雨定マラス晴天ニ
忽チ雨来リ道路常ニ湿フ予靴ヲ持セス步行甚
難淡ス午後靴ヲ求ント市街ニ出テ旅館ヨリ
二十許行キ支那店アリ靴ヲ商キノフ其價ヲ問
フ大圓銀一個半ト云予固方銀ヲ以テ買ント


ス彼筆ヲトリ此国不用方銀ト書ス予亦筆ヲ取
リ予所携唯方銀而已如何ト書ス彼首肯又筆ヲ
取り四個方銀可以交換ト書ス是ニ於テ予思フ
ニ靴一對ハ我國ニテ二個方銀ノ價ナルニ四個
方銀トハ甚ク貴シ然レ今求メサレハ戶外一步
モ行ク能ワス乃チ四個方銀ニテ求メ歸ル後チ
考ルニ大圓銀一個半ハ方銀四個半ニ当ル是ヲ
四個方銀ニテ求メ得レハ價カニク賤シ他ノ求
ムル者大抵大圓銀一個半ト云フ又酒店ヲ行キ
見ルニ夷人来リテ酒ヲ沽フニ高脚盃ニツ小田

銀一個ヲ抛子小田銀八大田銀其外諸物ヲ沽ワ
ニ皆是ニ準ス田銀位ノ賤キ一ナリ是ヲ以テ知ルハ
ニ花旗ニ至リ尚又探索セン今茲ニ畧ス
○寒暖計七十三度
十六日 晴雨不定 滯留今日モ晴雨定マラサレト昨日
ニ比スレハ晴レ多シ午後市街ニ出テ書肆
ヲ尋子ニニ語音通セス尋ヌルニ方ナレ幸ニ
弟人ニ逢ヘキヲ以テ書籍ノ形ヲ取リ或ハ書ヲ
翻ス形容ス彼乃チ首肯ノ案内ス豈計ニヤ衣服
洗濯所ヘ行ケリ又午ヲ以テ細カニ示シケルカ

又ニ首肯メ大ニ我意ヲ解シタルニ似タリ乃チ
案内シテ写真局ニ連シ行ク誤リナシ元是亦一
見スルニ足ル故ニ暫ク且ヲ止ム時ニ同船ノ島
東西ハト云人 外國却奉行調子先チテ其処ニ
アリ兩人ヲ別房ニ案内シ真ヲ写ス其奇巧筆ニ
尽シ難シ大畧左ニ記ス
始メ別房人ナキ処へ兩人ヲ並ヘ置キ其傍ニ暗
室アリ其処ニ入リ硝子 容ノ好ニ随ヒ大小ア
子長サニ 硝子 硝子 容ノ好ニ随ヒ大小ア
寸横一寸ニ 硝子 硝子 容ノ好ニ随ヒ大小ア
葉ヲ乾ス為メナラン暫シテ此ヲ取リ出ス板ヲ

以テ四方ヲ狭ニ傍ニ置キ而ノ兩人ヲ正レク立
タセ身ノ倚徧セサル様鉄製如此キ物ニテ
首ヲ挟ミ一間許隔テ高脚遠眼鏡ニ似タル物ニ
テ認ム見ル時ハ黒木綿ヲ蒙ルコレハ平生眼鏡ニ縫付テ置ク暫クメ其中
程ヲ明ケ右ノ硝子ヲ板ニ挟ミタル俛ニテ入レ
房中言語ヲ察セス静ニシ又ニ能ク認メ然ル後
真像写リタル頃ロヲ考ヘ眼鏡ノ前面ニ蓋ヲ覆
ヒ暫クメ硝子ヲ取リ上ケ又ニ暗室ニ入り兩次
程菜ヲ滲ラシ燈アルコイルヲ以テ数次モ
乾ス夫ヨリ種々彩色ヲ施セハ兩人ノ容免寸分

モ違ウス写リ居ル其奇巧妙実ニ驚キ入ルコ
トアリ
是ヲ去テ漸ク書肆ニ行フヲ得タリ数万ノ書籍
架上ニ並ベ置ク何レモ鮮出行字ニテ讀ム能ウス
尤價ノ貴キヲ我國ニ数倍ス当島ノ地畜ヲ求ニ
トスルニ半紙葉ニテ極メテ鹿ナリ四枚ニテ一
大円銀ニ当ルト云求メヌメ帰ル又其隣家ニ行
キシカ活板所ナリ大小アレハ皆車ノ機巧ニテ
摺出ス其精密筆ニ尺ス能ウス暫時ノ間数百枚
摺リ出スト云フ予大紙ヲ摺リ出スヲ見ルニ傍

一人アリテ車ヲ轉廻ス車下活板ヲ置キ車ノ
轉廻ニ從テ自然ト摺リ出テ、車上ニ上ルニ又
熊手ノ如ク鉄ニテ作り前後ニ轉倒スルモノア
リ摺上リタル紙其上ニ推シ出シハ即チ顛メ車
後ニ倒レ紙ハ自紙ト其処ニ懸正ニ重ル其外一
トメ目ヲ驚カサザルモノナシ申後山麓ニ向ヒ
行キシカ三四丁ニメ寺アリ門閉チテ入ル能ハ
ズ遠見シテ分明ナラ子共大畧瓦石ヲ疊ミ白堊
ヲ塗リ極メテ羨ナリ屋上  如此キ高樓ヲ
設ク高サ六七間位ニテ天主ヲ祭ル処也ト云

是ヲ過キ十丁餘行ケハ由舎ニメ寐莫ナシ
士人アリ我輩ノ来ルヲ見テ頻リニ招ク入ラス
メ過ク又一家アリ女三四人出テ袖ヲ引ク止ム
ヲ得ス其家ニ入シハ懇懇ニ待遇ニ蒸芋ヲ与テ
味淡泊ナリ又少シク行ケハ水田アリ黍稻ヲ植
ヘス唯芋ノ類ヲ植エ此処ニテ日己ニ西山ニ傾
キ遠ク行ク能ハス乃チ歸館ス

○寒暖計不試

十七日 晴陰不定 滯留辰後英館ニ行ク若少ノ女四人
居リ一人モ男子ナシ我等ヲ見テ大ニ喜ヒ房中

ヨリ出テ来リ案内ス房中ニ種々ノ奇品ヲ並ヘ
中ニ卓子アリ其上ニ珍器奇品ヲ羨廉ニ飾リ慇
懃ニ其品ヲ取リ出メ見ス又一人ノ女琴瑟必ニ似
タルモノヲ彈シ聞ス其形容大畧後ニ記ス又蒸
餅ヲ持チ来リテ食ハレム何レモ色白ク装ニ極
メテ羨ナリ此ヲ去リ半丁許ニメ又英館ト覺シ
キ処ニ入り見シハ女三人居ル是又慇懃ニ待遇
ニ縫針ノ業ヲ示ス我國ノ如ク専ラ午ヲ以テス
ルニ非ス前ニ高サ四五尺長サ三四尺幅ニ三尺
位ノ臺ヲ置キ臺下ニ車ニテ機巧ヲ設ケ臺上又

種々ノ機巧アリテ針ノ上下スル様ニ為シ臺下
ニ豆ヲ掛クル処アリ是ハ豆ヲ掛クレハ其車運
轉メ臺上ノ針自然ト上下暫時ニ四五尺モ縫ヒ
出スナリ尤絲ノ繰出し等皆臺上ニ脩ル其縫合
俗ニ所謂寛政縫ノ如クニメ極メテ精密ナリ是
ヨリ處ニ徘徊午後ニ至リ帰館ス午後又海岸ノ
方ニ行キシカ途中六七歳ノ小兒アリテ蒸餅ヲ
持来リ予ニ与ヘ更ニ外人ヲ恐レス笑ヲ含ニ可
愛小兒ナリ又少シク行ケハ琴瑟鏘々ト聞エ暫
ク是ヲ笛メシカ房中ヨリ十四五ノ女出テ来リ

案内ス其中ニ四十歳許ノ女右小児ノ一人十二
三歳男見三人居ル、何レモ慇懃ニ待遇ニ十
四五ノ女燈燭子持チ来リ烟草ヲ喫セシム又老
婦采色ノ糸ニテ花ノ形ニアミタル者ヲ与フ辞
スレ死頻ニ懐中ニ入ルニ曰テ己ムヲ得ヌメ受
ク是珠玉ナトヲ藉クモノト見ユ其外地球面ヲ
出メ日本ハ茲ニアリ口ニトシハ茲ニアリナ
ト丁寧ニ指示ス且ツ女トイヘ死又字ヲ讀ム驚
入ルナリ此ヲ去テ四五町行ケハ海岸ナリ暫
ク眺望メ去ル土人ト見ヘ色黒キ女七八人路傍

ニ踞ス予等ヲ見テ大ニ騒キ見ル其中一人一絃
琴ノ形ニ似テ長サ一尺二三寸ニメニ絃アルナ
口ニ副ヘ手ヲ以テ彈ス其名ヲ問ヘハウテト
ト云是又奇品ナリ黄昏帰館扱テ凡俗ト見ヘ更
ニ疑惑スルナク其家ニ至レハ慇懃ニ待遇ニ珍
器奇品ハ勿論自分ノ寢室或ハ庖厨汚穢、処迄
一モ遺漏スルナク公然ト人ニ示ス我國ニテ
弟人、来ルヲ見レハ往テ戸ヲ閉テ隠シ或ハ奔
走メ避クルトハ雲泥、違ヒナリト云ヘシ
凡テ車、機巧ヲ用ルモノ多シ蒸氣車ニテ万里

ノ波濤ヲ平路ノ如ク涉ルハ勿論諸物ノ運送皆
車ヲ用ユ予カ見ル所ヲ以テスルニ活板ヲ摺ニ
モ是ヲ用ヒ又縫針ノ小事モ是ヲ用ユ然ラハ
事便利ハ車ノ機巧ニアリト知ルヘシ
鳴物ハ笛胡弓四ツ竹ノ類多シ其外ヲールコー
ルノ大小アリ又琴壺ニ似タル物アリ予英館ニ
行キ見ルニ十三四歳ノ女是ヲ彈ス其形容ハ我
国ノノゾキト唱フル物ニ似タリ大畧如
此ニテ全ク箱ナリ其中ハ機巧ヲ施シ前段ハ長
廿五六寸幅五六分位ノ小木ヲ二本三本ト少許

右思

隔テ統計三十五本ナリ彈スル寸手ヲ以テ右小
本ヲ推セハ妙音出ツ彼ノ右ヲビヤント云フ
其製種々アリ今一ヲ挙ク又ヲールユールニ似
テ大ナルモノアリ是又車ノ機巧ナリ一人傍ニ
アリテ車ヲ廻セハ種々ノ音出テ衆音合奏スル
ニ似タリ彼ノ名ニアールゲント云フ又一絃琴
ノ形ニ似テ二弦アルヲ見ル大畧亦夕聞クニ足
ル此外數品アラシ今見ル所ヲ記ス
○寒暖計不試
十八日 晴時、驟雨 滞留辰後瓦斯燈製造ヲ見ル左

二記ス

蘭説ニ瓦斯数種アリ一ハ「カ」止光曜ナリ一ハ

コイル炭ワートル水トフ也カスト云一ハ「カ」

一リ油ホルメン精トカスト云フ今其製法ヲ

見ル鑄鉄ノ竈六個ヲ連テ左右ニ行ナシ也毎竈

径一尺五寸許ノ釜ヲ設ケ石炭ニテ之ヲ焚キ釜

蓋密ニ封メ唯ニ管ヲ指シ入レ鉄或銅一管ハ

周ニ三四分ニメ如此ク屈曲スルアリ細キ

方ヲ釜蓋ニ接シ廣キ方ヨリ鯨油ヲ滲ス此油炭

火ニ由テ瓦斯トナル一管ハ径二寸許ニメ水箱

ニ入リ此水箱ハ每釜ニ設ケ又其箱中ヨリ出ル

管アリ此管ハ六釜ヨリ貫通メ皆大管一個ニ合

セ入ル大管径リ四寸餘ニメ土中ヨリカノ挿ニ

入ル其桶ハ径リ四間許高三間許ノ鉄桶ナリ此

鉄桶ハ水中ニ底ヲ上ニメ伏セ入ル半ハ水上半

ハ水中ニアリ此水ハ池ノ如クニメ廻リニ石而

メ岸ヲ去ルテ四五寸許ニメ石ノ大管ヲ此桶ハ

潜通シ瓦斯ヲ其中ニ入ル但シ瓦斯多ク入ル寸

ハ水中ニ沈ム是ヲ以テ瓦斯ノ有無ヲ知ル又此

鉄桶中ヨリ一鉄管ヲ土中ニ潜通メ小管數個ヲ


接シ自在ニ每家へ通シ席上ニ管端ヲ出シ常ニ
鉄栓ニテ其氣ヲ塞キ火ヲ点スル寸ハ其栓ヲ拔
キ呼火ヲ逸ニ点スレハ忽チ燃ルナリ我國ノ越
後ニ自然燈アリ又瓦斯ノ類ナラシ唯人為ト自
然トノ別アル、ニ歸途普濟堂ト記シタル扁額
ヲ店前ニ掛ケ置キ夕ル所アリ予其店ヲ尋子ニ
カ支那人ニノ菜ヲ啗フ其人感慨ノ氣多ク共ニ
談スルニ足ル乃チ別房ニ入り互ニ筆語相接シ
時ヲ移スニ至ル各別レテ告ケ相揖、去ル午後
至城ヲ一見ス海岸ヲ去ル、三四町其形我國ノ

城ト異ニノ至テ廉ナリ城中ニ入ルヨリ許サス入
行キタル寸御奉行ソ、外ホーハタシ、コモトト
ル等来シト見ヘ門内左右ニ小砲隊ヲ備ヘ嚴重
ニ警固スコモト、ルニテモ小砲隊ニテ行伍ヲ
列シ音楽ヲ奏ノ歸ル如此キ嚴重ノ所ナレ元風
俗トテ車上男女同乗ニテ門内ヲ縦横ニ出入ス
且ツ高家貴人ト雖元禮并スルヲナク門外數百
ノ男女雜選ノ路ヲ見ル知自然レハ禮法ニ於テ
ハ禽獸同様ニテ取ルニ足ラス唯器械ノ精密ハ
彼ニ譲ル万々ナル、ニ歸途一商店ニテ類リ且

我ヲ招ク至レハ則痘痕^アハ一老女アリ予ヲ見
テ涙ヲ流シ予ノ手ヲ取リ椅子ハ腰ヲカ^カサ^サセ
予ノ顔ヲ撫摩ス是定メテ同病ヲ相憐^シムタル
コナラシメ笑フヘキ、至ナリ夜ニ至リ花旗館ニ
テ音楽或ハ妓舞ナトシテ樂公国王其処ヘ来リ
見ル大畧左ニ記ス
室ニ内外アリ皆紅白重層ノ幕ヲ張リ室外ニテ
樂人十人許ホリハタシ音楽ヲ奏ス室内ニ個
分レ一室毎ニ男女十六人ツ、相分ツテ男ハ女
ハ手ヲ取リ女ハ男ノ手ヲ取リ或ハ男女兩人互

ニ肩ニ手ヲ上ケ能ク組ヒ合ヒ圓舞ス傍ニ一人
アリテ指揮ス其指揮ニ從テ舞容忽チ変ス其速
ナルヲ瞬息ナリ指揮官ノ者兵卒ヲ指揮スルニ
同シ子牌後ニ至リ尚止マス門外ハ小砲隊二十
人許ニテ警固ス舞人ハ男女皆花旗人ニテ其中
男二人女二人ハ此地ノ上官ノ婦ト見ヘタリ酒
食ハ別席ニ設ケ釣燭等アリテ空中爛々タリ其
外皆羨ヲ尽シテ人目ヲ驚ス
○寒暖計不試
十九日 晴午後御奉行并ニ從臣ニ至ル追皆乗船

ス鮮纜スルニ非ノ何故ニ乗船スルアラント疑
ハサルモノナシ定メテ從臣ノ者市街ヲ從横ニ
徘徊シ異邦ニ愧恥ヲ遺スヲ畏ル、欵又ハ費ノ
多キヲ畏ル、欵、ニツナラン旅館、止宿賃一
人ニテ一ドルラルト云フ而メ飲食ハ自分ニテ
具ルナリ又浴湯ハ總計四桶ニテ一桶一トルラ
ルニ当ルト云フ又四桶ニテ五トルラルトモ云
フ予管セサルニハ詳ナラス唯其費ノ多キ以テ
知ルヘシ浴湯所ハ長サ五間許横ニ間許ノ家ヲ
四室ニ分ツ一室一桶ナリ傍ニ銅製ノ桶アリテ

水ヲ通ス上ニ銅製ノ如露アリ弗人ハ常ニ水ヲ
以テ浴スルト見ヘ如露銅製ニテ形ナリ小
孔數十アリテ水其中ヨ
リ滲ヲ設ケ上ヨリ水ヲ滲ラニ直ニ蒙ルナラニ
此度ハ我國ノ為メ湯ヲ用ヒシカ共冷ナルヲ尚
水ノ如シ尤桶ハ我國ノ製ト異ナリ  如此ニ
メ釜ハ別ニ拵ヘ置キ管ニテ桶へ入ルト見ヘ夕
リ故ニ少シク時ヲ過セハ忽チ冷カニメ浴スル
ヲ能ワズ未牌何レモ糸船ニ終ル船上行李擾雜
ス黄昏漸ク定マル
○寒暖計七十三度○今辰後日本全権米州三ニスト

ル寓館へ行ク
二十日 晴 滯船小砲隊ノ者各装ヲナシ時ニ調練
ス昨日モ同シ午後サント井スル者欵天主教ヲ
施ス者船中ニ来リ一卷ノ書ヲ出シ一時半許高
色ニ讀ミ唱フコモトール始メ船中ノ者共左右
前後椅子ニ腰ヲ掛テ謹テ之ヲ聞ク 靜謐ニ人
ナキカ如シ 我國ノ所謂說法ノ類ナラン

○寒暖計七十五度

廿一日 晴 滯船今日ハ大ニ暑氣ヲ催シ船中各草
衣ヲ用ニ辰後水船一艘来リ船中ニ運コヒ入ル

是又車ノ機巧ヲ以テ極メテ便利ナリ

○寒暖計七十六度

廿二日 晴 滯船未後小雨アリ忽チ晴ル 扱滯船中
ノ儀式ヲ見ルニ平日ト大ニ異ナリ 大畧朝夕大
小鼓ハ笛ヲ交ヘテ撃チ鳴ス朝ニハ始メ夕ニハ
終リ必ス一砲ヲ放ツ 且小砲隊ノ者各装ヲナシ
船上ニ終日扣ヘ居リ客ノ出入毎ニ隊伍ヲ並ヘ
巖重ニ警衛ス又時々調練ス其威儀堂ニ夕リ夜
ニ入り炎熱如焚江戸六月頃ノ如シ

○寒暖計七十六度

廿三日 晴 滯船朝冷氣ニメ草衣ヲ用ユル能ワス
午後ニ至リ漸ク暑氣ヲ催ス当所在苗ノ花旗人
頻ニ出入ル船中雜逞ヲ極ム其儀亦甚ク

○寒暖計七十二度半

廿四日 朝雨午後滯船未牌当所在苗ノ花旗ニ
ストルノ妻子船中ニ来ル何レモ羨装ヲナシ色

白ク土人ニ勝ル半中

○寒暖計七十二度

廿五日 晴時々驟雨来 滯船解纜近ニアルヲ以テ皆浴湯
ノ夕ノ午後午前ト分ル上陸ス始メ上陸セシ時

ト違ヒ土人雜逞セス

○寒暖計七十四度

廿六日 晴 滯船朝ヨリ当島在苗ノ花旗人男女出
入スルヲ頻リナリ尤午後国王来ル別ヲ告シ答

礼ナラン時ニコモドール始メ士官ノ者一統装


束ヲナシ船上ニ小砲隊ヲ整ヘ国王ノ来ルヲ

待ツ午後国王其旗章ヲ高ク奉ケ音楽ヲ奏シ且

祝砲ヲ発ス船上ニテ各冠ヲ脱メ互ニ手ヲ握合

ス是其礼ト見コ此ヨリコモドール房室ニ案内

ニ一時許ニメ帰ル時又ハ砲隊ヲ整ヘ祝砲ヲ

癸ス然後国王ノ旗章ヲ下ス扱国主年齢三十
許ニメ色黒ク装束至テ粗ナリ赤色ノ羅紗ノ三
ニテ更ニ飾リナシ泛者總カニ十人許皆羨装ヲ
著ス冠ハ  如此シ其中年齡五十五六十
ル人アリ是国王ノ父ニメ當時所奉行ト云様ナ
ル役ヲ勤ムト云フ又三十五六十人アリ是国
王ノ兄ト云 官職ヲ 当島ハ其任ニ当ラサセハ父
兄ト重テ其下ニ居ルト云王ハ必ス王族ノ内ヨ
リ人物ヲ選ニ其位ニ即カシム合衆国ノ如シ王
名ハカメハメハト云ヒ后ノ名ハエニマト云フ 開

開ヨリ今王ニ至リ總カニ四世ト云フ

○寒暖計七十七度

廿七日 晴東北風 今日解纜ニヨリテ朝ヨリ当所在苗
ノ花旗人絶ヘス来テ別ヲ送ル未後解纜ス始メ
南東ニ向ヒ一里計駛リ東北ニ轉ス逆風コハ帆
ヲ揚クル能ハス唯蒸氣ヲ以テスル、ニ夜ニ入
テ尚同シアホ島ニ傍フテ駛リ夜半大洋ニ出ツ

○寒暖計七十六度

散土微斯島

サントウ井ス諸島ハ豪斯多辣里州中ニアリト

云ヒ又東洋群島中トモ云フ未夕其是非ヲ詳ニ
 セス島數九十一ニメ連々相接シ東南ヨリ西南
 ニ亘リ北緯十八度五十分ヨリ起リ二十二度二
 十分ニ止リ西経百五十度ヨリ起リ百六十度ニ
 止ル而メ其東南ニアリテ最大ナルヲハワイホ
 云火山氷山アリ 記書二千八百五十二年十月十
 二日此山烈シク震動爆發シ石
 ヲ噴キ三里一カロニニテ支配ス
 四方ニ飛ス 鎮臺ノ類也古
 昔英吉利航客格古氏ヲ殺サレシハ乃チ此島ナ
 リ是ニ銃キモウ井モウカイラナイカホラ井モ
 ロキ五島アリ其中モウ井モロカイニ島頗ル大

ナリモロキニ至リテハ極メテ小ニメ人烟ナ
 シ此五島ヲ併セテ一カロニニテ支配スヲワホ
 島ハハワイヨリ小ト虫尾好港アリテ極テ繁花
 ナリ人烟稠密王府此ニ在リ其港ヲホノルト
 云フカワハイニハウレラアカウラノ四島モ亦
 皆大ナラスレフアカウラニ島ハ尤小ニメ人烟
 ナレ **總計里方三百里人口八万零六百四十二人**
 ト云フ 記書ニハワイ島二万七千二百零四人サ
 万八千六百七十一人カウ島三千四百八十九人
 一人モロカイ島三千四百二十九人ニハウ島七
 百二十三人ラナイ島五百二十八人 **一説十八万**
總計八万零六百四十一人ナリ

餘ト云フ其説未タ詳ナラス凡テ此諸島五十年
前始メテ開ケ夫ヨリ諸邦、弘法師来リテ大ニ
人民ヲ教化シ歲月ヲ逐テ感シナリ即今独立国
ト魚虎小国ナルヲ以テ多ク英米二国ノ助ヲ得
ツト云フ記書ニ此島ノ上古ハ史録ナク浩渺知
ニ此島アルヲ知ルキ七百七十年拾古氏之ヲ癸
明シ其船長サントウ井ス久名ノ名ヲ採テ島名
スト

阿呱浦島

ヲワホ島ハ第二、大島ニシテ長廿七里本邦
数幅
七里餘ナリ港ハ南岸ニアリテ平地僅ニ数里西

北皆山ニテ重叠相連リ山頂常ニ雲霧ヲ帶フ而
メ西方ニ斗出スルヲ二里餘東方一里許其間大
湾ナリ然レモ湾中処ニ浅沙出テ船舶通セズ中
間深キ処僅ニ十丁餘常ニ材木ヲ立テ之ヲ標ス
船舶直キニ岸ニ至ル当今英米其外諸蛮ノ舟擲
比ス而ノ米船最多シ土人ノ漁船亦七八十艘ニ
下ラス其中全木ヲ剣テ造タル小船アリ我国蝦
夷地ニテ用ユル丸木船ニ似タリ譯書ニ諸邦ノ
船皆此ニ下
碇ノ交易シ或ハ新鮮ノ食物ヲ覓ムト云フ
ヲ修補シ或ハ新屋多クハ木材ヲ用ユ或ハ煉瓦石
ハ整正ニメ家屋多クハ木材ヲ用ユ或ハ煉瓦石

ヲ用ヒテ 數層ノ高樓ヲ造築ス而シテ 諸邦ノ人來
リ任メ 貿易ス 記書ニ大商店ヲ開ク者ハ英米ノ
人トシトス支那及ヒ土人ハ大抵
菓實等ノ小店ヲ開キ 或ハ人ノ為メニ使役ヒラ
ルニ弗利加人ニ至リテハ皆僮隷ニ別ニ生産
ヲ為ス能 大抵天鵝絨羅紗時規眼鏡或ハ玻璃金
ワスト云
銀等ノ類皆奇巧ヲ極メ 人目ヲ驚ス 又妓樓劇場
アリテ 頗ル繁花ナリ 市街ヲ距ル近キハ一二丁
遠キハ十丁餘ニメ 英館米館佛館アリ 皆羨屋ナ
リ 寺ハ三ヶ所ニアリテ 數層ノ高樓ヲ家ノ中央
ニ築キ 天主ヲ安置シ 又山麓ニ 傍ヒ土人ノ家ア
リ 草茅或ハ粗石疊ニテ造ル 極テ矮小ナリ 其近

又思入

傍ニ水田アリ 多ク 薯芋ヲ植ユ 畑ハ畦ヲ起サス
花園ノ如ク平坦ナラシメ 胡椒 裙帶豆 南蛮黍等
ヲ植ユルナリ 王居ハ海岸ヲ距ル 纒ニ二三丁ニ
メ 長木竿ニ旗草ヲ建ツ 更ニ城疊ヲ設ケ 又廣袤
ニ下許 周圍屏ヲ築キ 三箇ノ石門アリ 每門一人
ノ兵卒アリテ之ヲ守ル 殿堂ニハ層樓ヲ築キ 我
國寺境ニ似タリ 其徑管極テ粗ニメ 門外荒草 藜
々タリ 唯旗章アルヲ見テ 始テ其王居タルヲ知
ルナリ 街中ノ人口凡ハ千人 其中土人七千人 花
旗國人五百人 英吉利人二百人 支那人二百五十

人亞弗利加人五十人ト云フ

風俗

風俗極テ淳樸ニメ鄭重ニ人ヲ待遇シ縦令孤客

夕リモ敢テ侵辱スルヲナク其体西洋人ニ似タ

リ然レモ專ラ嬉遊ヲ好シ生理ヲ務メス礼讓甚

夕薄ク男女雜選別ナキカ如シ記書ニ古昔五十

島民許ニテ礼義ナク教化ナク禽獸ニ異ナルヲ

ナシ外客ヲ見レハ直チニ來テ之ヲ咬フ子ヲウメ

ハ土ニ埋メ諸人集テ之ヲ踏殺ス極メテ暴殘

無智ニノ鬼ヲ祭メ邪神ヲ信スル者ノ三千七百七

愚民ヲ教化メ全島奉テ耶蘇教ニ一變メ淳樸友

愛ノ客トナシ野淫スルモノ多シト云フ

男女共色黒ク其眼瞬毛髮我國人ニ彷彿タリ手

足ハ多ク黥ヲナス衣服冠帽西洋人ニ同フメ粗

ナリ女ハ衲衣ノ如キ窄袖ノ衣ヲ服ス帶ヲ結ハ

ス胸半ヨリ袴ノ如キ褻アルテ踵ニ達シ殆ト地

ヲ引ク全衣連縫ス服スル寸ハ頭ヨリ蒙ムルナ

リ髮ハ散髮ニメ傍曲ノ擲ヲ以テ其髮ヲ総テ其

倫ハ護謨樹液名或ハ角ニテ造リ兩端反リテ上ニ

向フ故ニ頭上角ヲ生スルニ似タリ而メ數種ノ

草花ヲ糸ニ綴リ纏ヒ頸ニハ玻璃珠或ハ草木ノ

羨實ヲ綴リ飾リトナシ耳ニハ環ヲ掛ク其環多

クハ銀真鍮ヲ用ユ常ニ跣足ニテ往行靴ヲ用ユ
ルナシ小兒ハ同服ナレト大抵兩腕并ニ頸ノ
左右ヲ頸ハス外ニ英米等テ人種ト見ヘ眼晴碧
色ナレテ顔白フメ羨ナルアリ衣服ハ窄袖ノ衣
ニメ肩ヨリ腰ニ至リ印花布ノ類ニテ種々ノ采
色ヲナシ皆肌ニ襯着ヲ換束ス其上ニ羅紗或印
花布ノ類ニテ製シタル兩衣ノ如キモノヲ覆フ
腰下ハホフスカイト云フ鯨鬚或ハ鍛鉄ニテ編
ミタル輪ヲ纏ヒ其上ニ袴ノ如ク褌アルヲニ籠
或ハ三籠ヲ覆フ其周圍腰上ニ數倍モリ髮ハ九

右ニ分チ綵花或ハ藻草ノ如ク織織タル細細蒙
リ其飾黑白數種ノ采色ヲナス又冠帽三用
テ其飾リナキモアリ道路往行ニハ馬車ニ乘此
若シ馬車ニ乘ラサレハ靴ヲ着ク皆羨廉ナリ足
細キヲ貴フ俗ト見ユ女足皆小兒ノ足ニ似タリ
又眉毛ヲ去ラス又此島ハ馬多シ土人ニ乘此
日中原野ヲ横行シ或ハ車上酒菓等ヲ載セ自ラ
御ノ販キ行ク夜ハ戌牌後ヨリ戸ヲ鎖サシ往行
スルモノ至テ少ナレト云フ記書ニ夜戌牌半ニ
閉チ商店ヲ鎖ス妓館ヲ除ク外行歌スルモノ
ナク又宴ヲ承リ會飲スルモノナレ卷ニハ警

火夫ヲ置キ半時毎ニ時ヲ移ス第一卷ニテ時ヲ
呼ハハ次ノ卷ニテ之ヲ受ケ卷々相受ケ一時ニ
四方ニ遍

時候

ヲ口ホ港北緯二十一度餘ニ在テ四時過暖ニメ
酷ク炎熱ナラス記書ニ其中度ノ温ヲ七十五度
六十度八十度ヲ以テ上下
トス極度予革来リ寸二月中旬ナリシカ我國ノ
五月頃ノ如ク日中暑氣ヲ催ス夜半ニ至シハ蚊
蚤来リ帳ヲ用ヒサレハ眠ル能ハス尤西瓜甜
瓜已ニ熟メ味極メテ羨ナリ又菊花ヲ見ル其外
秋海棠日々草千日草鳳仙花ノ類爛熳トノ開ク

予或家ニ至リ蛮椒ノ長サ數尺ナルヲ見ル定メ
テ四時枯落セス年々実ナルナラシ其温暖以テ
知ルヘレ唯降雨常ナク乍晴乍雨フル一日ニ
五六次故ニ平生雨傘ヲ去ル能ハス

草木

凡テ草木多ク生ス往々我國ニ異ナルアリラハ
ラト云樹アリ葉ハ蘭ニ似テ幹ハ棕櫚ノ如シ土
人此葉ヲ採リ臭類或炭ヲ包ム又コクナツト云
樹アリ海辺ニ多シ葉ハ棕櫚ニ似テ長ク幹ハ全
ク棕櫚ノ如シ葉間數箇ノ実ヲ結ヒ其大サ頭ノ

如シ校中清水ヲ貯ヘ味少シク甘シ是即椰樹ナ
リ又フレンテト云樹アリ幹棕櫚ニ似テ葉桐ニ
同シ葉間実ヲ結フ形ク甜瓜ノ大ナルモノニ似
テ味尤羨ナリ芭蕉多シ實ヲ結フ形ク三角ニメ
長シ數十ノ実一房ヲナシ味甘クメ尤羨ナリ西
名ヒナト云又大匏アリ土人之ヲニツニ割リ
臭類蔬菜ヲ入レ扁批ヲ以テ擔ヘ行ク又霸王樹
アリ高キ者二間許葉容圓ニメ我國ニアルモノ
ト少シク異ナリ白檀ハ此地ノ名産ナリト云セ
シカ今至テ少ナク予見ルヲ得ス此島ノ名産ナ
記書ニ白檀ハ

昔シ之ヲ最上ノ貨物トシテ支那ト通商ス支
那人曰テ此島ヲ檀香島ト名ク一時ニ利ヲ貪
リ夥シク伐リ出スヲ以テ今ハ草花ハ秋海棠千
林藪至テ稀疎ナリト云フ
日草鳳仙花ノ類ヲ見ル蔬菜ハ裙帶豆南蛮黍西
瓜甜瓜胡椒ノ類多シ其他小麦架菲蓋木綿烟草
素樹砂糖黍等ヲ産ストイヘシカ予ハ見サリキ
松杉梅竹ノ類ハ更ニ産セサルナリ

生物

鳥獸至テ少シ獸ハ豚羊ノ類アリ羊ニ二種アリ
一ハ綿羊ナリ一ハ綿羊ニ似テ角アリ毛短クシ
テ或ハ茶或ハ黒ク或ハ黄ナルアリ是平生養ヘ

置クト見ヘタリ犬猫ハ我国ニ異ナラス但犬高
キハ二尺余ニメ長廿三四尺許小ハ高廿一尺許
ニメ長廿二尺許ナリ馬牛ハ我国ト同シナシ元
牛少シク角長フメ屈曲シ馬ハ平生車ヲ引ニ用
ユ又乘馬ニモ用ユ何レモ馭良ニノ踏蹶ノ憂ナ
シ大抵鞆丸ヲ去ルト云フ車ニ用フルニハ四輪
車ニテ一馬ヨリ六馬ヲ用ユ車上ニ坐床アリ一
床ニ二人ヨリ六人ヲ坐セシム上ハ黒キ木綿ニ
テ覆フ一人床前ニテ鞭ヲ以テ使フ其走ルフ飛
フカ如シ其鞭端細メ草アリ是ヲ以テ馬尾ヲ撃

ハ
ツ諸物ヲ運送スルニハ二輪車ニ一馬ヲ用ユニ
百貫目ヲ乘スト云フ又所謂馭馬アリ大抵乘馬
トス牛ハ車ヲ引カセ專ラ運送ニ用ユ極メテ便
利ナリ鳥ハ雞七面鳥ヲ畜ヘ置ク其外鳩ノ飛フ
ヲ見ル燕雀鴉鳶ノ類一羽モ見ヌ奥ハホライイナ
ノ類多シ又ホライニ似テ長廿三尺位ノ奥アリ名
知ラ味羨ナシ死少シク泥臭シ外ニ海老ノ大ナ
ス
四ヲ見ル我國、伊勢或人曰アイマ参州辺ニ形
千鯛ノ如ク薄フメ鱗ナシ又ウフナシ名ヲ一カ
ウフナト唱ヒ西国ニ似タル魚アリ又コイル口
ニテヲトカント唱フ

ニ似タル臭アリト云フ定メテ時節ニ随ヒ種々
 ノ臭アラシ今見所ヲ記スルニ虫ハ蚊蠅ノ類ヲ
 見ル蠅尤多シ朝夕ト虫ヲ群ヲナシ来ル赤蟻ノ
 至テ小ナルアリ蜻蛉ノ色青クシ大ナルアリ百
 足アリ蟋蟀蝴蝶ノ類曾テ見サリキ或曰夜中虫
 色ヲ聞ク其色形容ニ難シ虫類モ亦時節ニ志ノ
 多クアラシ

貨幣

貨幣ハ此島ニテ製造スル者ヲ見ス英仏米等諸
 邦ノ金銀幣一般ニ通用ス

物價

諸什器其地ニ産スルモノ少ク都テ英吉利西米
 利加弗蘭西支那和蘭ノ諸邦ヨリ輸入ス價極メ
 テ貴シ今見ル所ヲ左ニ記ス

- 一米一升八合 一大圓銀
- 一酒一合許 一小圓銀 六圓銀ニ
- 一雞蛋二十四個 一大圓銀
- 一南蛮瓜五個 半大圓銀 大圓銀ニ
- 一鯛六尾 一小圓銀
- 一靴一對 大圓銀一個半

旅館

旅館ハ海岸ヨリ相距十六七丁ニシテ、
ナリ都テ煉瓦石ヲ疊ミ外白墨ヲ塗リ厚サ一尺
四五寸ヨリ二尺ニ至ル我邦土藏煉屏ノ如ク高
サ僅ニ二層ナリ二間或ハ三間ノ房室ニ縦四尺
五六寸横三尺許ノ玻璃窓アリ低窓ハ更ニナシ
且ツ草席ナク花櫃ヲ用ユ靴ノ出入ス毎房椅子
ヲ設ク人負ニ忘ス貴キハ天鷲織賤キハ菅寢室
ハ衆一間横半間ノ檯ニテ高サ二四尺アリ上ヲ
白木綿ニテ覆セ丸右ニ菱形ノ薄木綿ヲ張り我

国ノ蚊帳ニ似タリ布團ハ白木綿ニ鳥獸ノ毛或
ハ木屑ヲ厚ク入レタルヲ一層或ハ一層ニ敷キ
白羅紗ニ似タル毛長ク且ツ粗ナルヲ以テ身ヲ
纏テ卧ス名ヲクラシケツボト云フ而シテ棟敷ハ
ケ所アリ其中四個ハ酒舗浴湯所庖厨所主人ノ
居処ナリ外四個ニ上陸ノ面々止宿ス其中二個
ハ大ニ三層ニ作リナリ御奉行ヨリ調役ニ至ル
迄ハ後ノ家ニ宿ス徒目付等ハ前ノ家ニ宿ス予
輩ノ止宿所ハ其下モニアリ總計三十六人ニテ
二個ニ分レ一個ハ用役ヨリ中小性ニ至リ一個

ハ徒士ヨリ僕隷ニ至ル多クノ人負雜運ヲ極ム
且ツ寢室少ナク下亦一席ヲ藉カス塵芥四隅ニ
堆ク汚穢ヲ極ム已ムヲ得ヌメ之ニ卧ス船上房
室狭隘ナルニ苦ム故ニ衆皆上陸シ以シク氣
ヲ養ハント願ヒニ豈計ニマ大ニ望ヲ失ヒ却テ
船上ヲ慕フニ至ル

妓楼

街中妓楼數ヶ所アリ其一樓ヲ見ルニ三層ノ造
リニテ下層ハ酒ヲ商ヒ傍ニバイレールト云モ
彈ス我國ノ胡弓ノ色ニ似或ハ銃箸三本ヲ

三角ニ綴リ結ヒタルモノニ四ツ竹ヲ加ヘ能ク
拍子ヲ取り撃チ鳴ス歌色ナケレモ亦鬱ヲ散ス
ルニ足ルニ層ニハ賣妓數十人椅子ニ腰ヲ掛ケ
列居ス三層ハ一間四方位ノ房室數十ヶ所アリ
乃チ閨中ナラン予等ヲ見テ恐怖スル心ナク却
テ午ヲ取り引キ入レントス幸ニノ逃シ来ル固
ヨリ万国出入ノ港ナレハ外人ヲ親ムト此ノ如
ナラン

酒店

酒店ハ店中ニ二間或ハ三間許ノ檯ヲ置ク高サ

大抵腰ニ及ハズ但シ家ノ大小ニヨリ後口ニ閣
板ヲ設ケトツクリテ又大小アルヘシ櫻桃酒ビール
容来レハ檯上ニ高脚盃ヲ並ヘ置キ其好ニ随テ
之ヲ酌ム而ノ一箇ノ肴ヲ設ケス左右ニ種々ノ
額ヲ掛ク皆玻璃画ニテ人馬ニ羽ヲ生スル形或
ハ裸体ノ女ナト凡テ奇ニ妙ニ形ヲ繪ク又其
傍ニ突玉ノ戲シアリヒレクイホト云フ或ハ投
玉ノ戲シアリフロイント云フ突玉ハ一間許ノ
檯ヲ設ケ四隅或中程ニ空孔ヲ穿キ其上ニ彩玉
四ツヲ置キ杖ヲ以テ其玉ヲ突キ空孔へ入ル是

ニテ勝敗ヲ定ムト云フ投玉ハ五六間許長ク弓
場ノ如クニ板ヲ敷キ右ニ小溝ヲ設ケ是ハ玉ノ
外ハ散セ
ナル為メ左ニ闌干ノ如クニツ並ヘ建テ其間玉
ヲ投シ是ハ投ケタル
トナル程ニ高低ニ小溝ヲ設ク是ハ元へ還ス
寸此へ入ルレハ自而一尺許ナル小木ヲ数本立
テ遠ク離レテ一尺廻リ或ハ二尺廻リノ鉄丸丸
實丸ヲ投ク其轉スルニ從テ小木ヲ倒ス亦其倒
ス數ヲ以テ勝敗ヲ定ムト云フ外種々ノフモア
ラン暫ク見ル所ヲ記ス

